

大阪市立十三中学校 令和元年度 校長経営戦略支援予算【加算配付】実施報告書
(補足説明資料)

本校では、「平成 31 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。」ことを年度目標とし、年度目標に応じた事業効果を測る指標として、「校内調査における「学級生活満足群」(学級内での生活に十分満足している生徒)の割合を 40%以上にする」ことを設定した。

上記を達成するために、以下の 1 つの取組を行った。

1. 取組内容 (1) について

1-1. 取組を実施する必要性

本校では、全国学力・学習状況調査(以下、「学力調査」と表す)やチャレンジテストにおいて、本校の各項目平均正答率は大阪府・市の平均にも及ばず、学力の向上が最大の課題である。一方、全国体力・運動能力、運動習慣等調査(以下、「体力調査」と表す)においては、部活動や学校行事などを通じた各種の取組により、とりわけ男子については全国平均を上回る種目が数多くある。また、これまでも安心・安全宣言を掲げ、信頼される学校づくりに取り組んできたが、いじめや暴力行為等が断続的に発生しており、学級内や学年での生徒同士の人間関係を客観的に把握する必要がある。

上記の課題を解決するため、教育振興基本計画における「施策 2 安全で安心できる学校、教育環境の実現」の一環として、「ホワイトボードを活用したグループ学習を取り入れた学力検査対策で、標準学力検査で求められる判断力・表現力を育成する」ことを実施した。また、「hyper-QU テスト」に対応した標準学力検査を実施することにより、学級内の人間関係を精査した上で、面談や家庭訪問に活かし、効果的にいじめの予防、早期発見、早期対応を行った。そして、学習における 3 観点の実現状況の妥当性・客観性を高める手法として活用し、早期の学力低下を把握し対応した。

1-2. 取組を実施することにより期待できる効果

ホワイトボードを活用したグループ学習により、学力向上をしながら、仲間づくりができ、いじめの予防ができることで後期の QU テストにおける学級満足度が高くなる。

1－3. 具体的な実施内容

具体的な実施内容としては、下記のとおりである。

①ホワイトボードの活用

具体的には、ホワイトボードを活用したグループ学習により、学力向上をしながら、仲間づくりをし、いじめの予防をする。

1－4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

・取組に対する達成状況：B

・評価理由

【いじめの予防】

○各回校内調査において、いじめの申告数を5件以内に抑えることを目標とした。最終は7件であり、目標を達成することはできなかった。

【自己肯定感の高揚と被侵害感の抑止】

○校内調査における「学級生活満足群」（学級内での生活に十分満足している生徒）の割合を40%以上（全国平均37%）にすることを目標とした。後期の調査では1年55%、2年49%、3年48%であり、目標を達成した。

【学力の向上】

○平成31年度のチャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させることを目標とした。

〔72期生（現3年）：30年度 93.0〕【最終…90.8】×

〔73期生（現2年）：30年度 89.1〕【最終…91.8】○

〔74期生（現1年）〕【92.0、※2教科（市）…106.6】

学年・教科により目標を達成できなかった部分があった。

以上の成果から、B評価とした。

「平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。」という年度目標に対して、「98.1%」にすることができた。また、年度目標に応じた事業効果を測る指標として、「校内調査における「学級生活満足群」（学級内での生活に十分満足している生徒）の割合を40%以上にする」ことを設定し、これに対して、「後期の調査では1年55%、2年49%、3年48%」の結果を残すことができた。

以上の結果から、年度目標に対する達成状況を「B」評価とした。

2. 総論

2－1. 年度目標の達成状況、総評

本校では、上記の取組を実施することにより、「平成 31 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。」という年度目標に対して、「98.1%」にすることができた。

ホワイトボードを活用した授業をきっかけに、めあての設定、協働学習の導入、振り返り、ICT 活用などを行うとともに、相互授業参観を積極的に取り入れ、教員の授業力向上に努めている。取組としては徐々に進みつつあるものの、最終目標である学力向上に関しては明確な成果が出ているとまでは言えない。今後も、主体的・対話的で深い学びの取組を推進し、子どもたちが楽しいワクワクする授業の創造を推進していく

2－2. 学校協議会における意見

今回の取り組みがいじめや生徒間暴力の予防、不登校傾向にある生徒に対する刺激となったことを評価する。今後も、安心して成長することのできる学校づくりと学力向上の取組継続を強く求める。